

2008年8月末豪雨での
災害ボランティア活動
から見えた課題
～名古屋市災害ボランティアセンター

特定非営利活動法人
レスキューストックヤード

平成20年8月末豪雨 名古屋市災害ボランティアセンター

□期間

- ① 8月30日(土)～31日(日)プチボラセン
- ② 9月1日(月)～12日(金)災害ボランティアセンター
- ③ 9月13日(土)～23日(火)事後引継ぎ(市社協等)

□ボランティア活動者数

延べ354人(内、連絡会254、その他107)

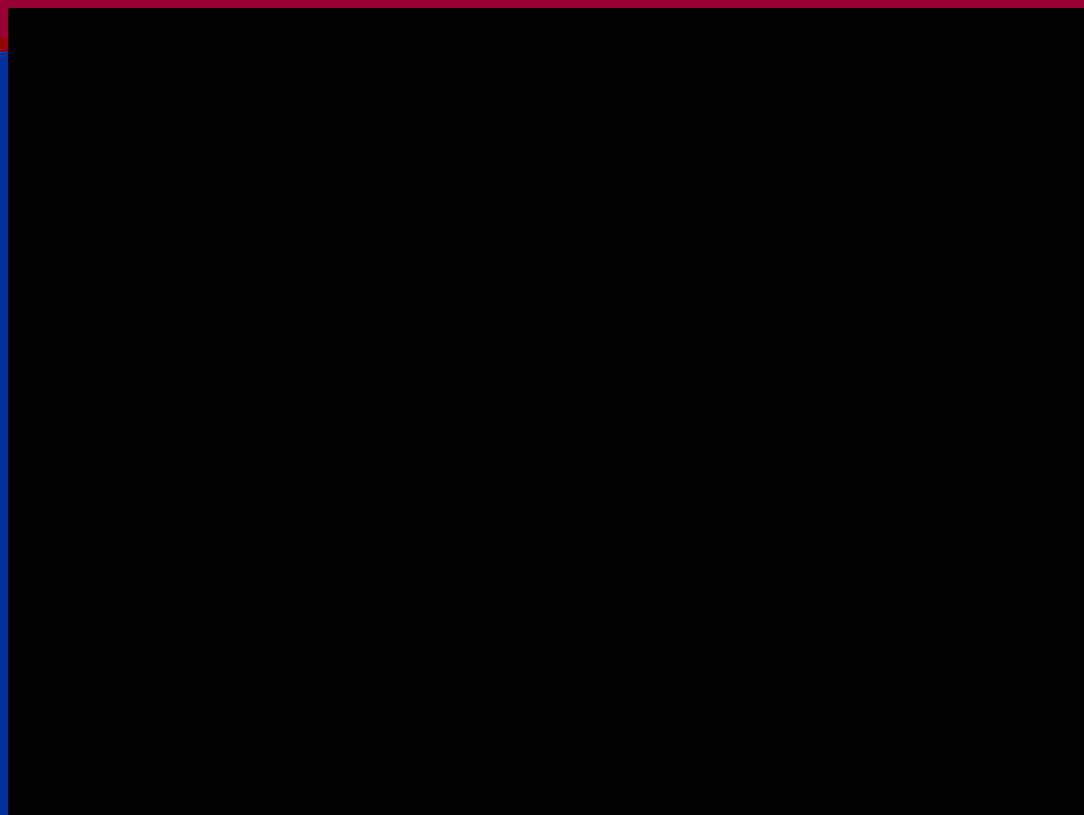
□ニーズ完了数

118件

(内、千種1、北24、西20、中村8、中5、中川56、港4)

□名古屋市内床上浸水 1,149世帯

8月29日朝の様子



資器材の搬出(8/29)



プチボラセン(8/30~31)



課題①被災世帯数のあがり方

- 8月29日の臨時幹事会の開催時点での床上浸水が全市で177世帯であったため、大掛かりなボランティアセンターの設置はあえて見送り、プチボラセン(※以下参照)の選択を行った。
- しかし被災世帯は日に日に増加し、最終的には1200世帯を超えたことから、いわゆる行政ラインからの情報だけに頼っていては、対応は後手になる課題が残った。

※プチボラセン

いわゆる「災害ボランティアセンター」という大きな取り組みではなく、小規模の体制で、かつニーズ調査と作業を同時に実施するボランティアが直接被災地に入る活動を行うという考え方

まとめ

- 普段から顔の见えていた関係があつてうまくいった。
 - ボランティア団体と行政とのつながりがあれば、いざというときの動きもスムーズだった。
- 一方で・・・
- 名古屋220万人は大きすぎる。あらゆる手立てを使つても見えてこない被災者。
 - 必要だったのは「コーディネーター」ではなく「ボランティア」